

経済学部A方式Ⅱ日程・社会学部A方式Ⅱ日程
スポーツ健康学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～17	日 本 史	18～38
世 界 史	40～57	地 理	58～64
数 学	66～71		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学は以下の注意事項に従うこと。
 - ・ 解答用紙の所定欄の受験学部を○で囲むこと。
 - ・ 解答はおもて面と裏面の所定の位置に、上下の方向に気をつけて記入すること。
 - ・ 解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・ その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・ 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

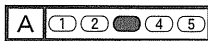
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

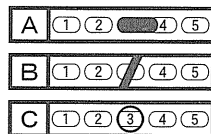
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(世界史)

〔I〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

アフリカ大陸は人類発祥の地であり、様々な土着の文明が生まれ、外来の文化との混交が生じた地でもある。紀元前より、ナイル川の中・上流域では諸王国の興亡がみられた。最初の黒人王国とされている [1] は、前8世紀にナイル川下流域のエジプトを征服し、エジプト第25王朝を開いた。その後、 [2] によってエジプトを追われた [1] の人々は、ふたたび中・上流域に拠点を移し [3] に都をおいたので [3] 王国とも呼ばれる。 [3] 王国ではエジプトの影響を受けてピラミッドが築かれ、ヒエログリフに由来する独自の文字も発展したが、4世紀にアクスム王国によって滅ぼされた。この王国は [A] に位置する都市アクスムを中心⁽¹⁾にローマ帝国などとの交易で栄えた。10世紀以降には、アフリカ東部のインド洋沿岸部にモガディシュ、 [B]、⁽²⁾ザンジバル、キルワなどの港市が形成され、ムスリム商人の拠点ができて、ダウ船などによるインド洋交易で栄えた。さらに南方では、ザンベジ川の南で11世紀頃に [4] が成立し、インド洋交易などで繁栄することになった。

西アフリカでは、前5世紀ごろまでに鉄の利用が始まり、農業生産の技術が発展していた。やがて塩や金の交易などによってガーナ王国が発展した。ムスリム商人との交易は盛んであったが、この地にイスラーム教が広まるのは [C] に都をおくムラービト朝が11世紀にガーナ王国を征服してからである。その後、富裕な王 [あ] で知られるマリ王国などが台頭した。この頃から交易拠点だったニジェール川流域の都市 [D] は、ソンガイ王国の時代にも存続し、その繁栄ぶりはアフリカ大陸を超えてヨーロッパにまで知られ、北アフリカなどからウラマーらも集まった。しかしソンガイ王国は16世紀に [5] の遠征⁽³⁾を受け滅亡した。

アフリカとヨーロッパの接触には二度の大きな波があり、いずれもアフリカにとって不幸な結果となった。最初の大きな波は、17～18世紀にかけての大西洋三

角貿易の時代であり、この頃の奴隷狩りなどによって西アフリカ各地から南北アメリカ大陸へ多数の奴隷が輸出され、西アフリカの社会は荒廃した。二度目の波は、リビングストンや によるアフリカ内陸部の探検が嚆矢となつて、19世紀後半にアフリカ大陸全域を襲った。ヨーロッパの列強が進出し、アフリカ大陸を急速に分割していったのである。とりわけ広範囲を植民地化・保護国化したのが と であった。 はアフリカを横断する形で、 はアフリカを縦断する形で侵略を進め、両者は対立した。同じころ、南部では17世紀に植民した 人の子孫が と対立し、南アフリカ戦争(ブール戦争)が起こった。結果として が辛勝し、 が1910年に成立し、 系住民との協力体制がつけられた。19世紀に植民地化を免れたのは東アフリカのエチオピアと、西アフリカでは である。エチオピアには1895年に 軍が侵入するが、 の戦いでエチオピア側が勝利し、独立が守られた。米国の解放奴隷が中心になって1847年に建国された は、イギリスやフランスの干渉を受けたが、米国の後ろ盾を得て独立を維持することができた。しかしこれらの国々も内政面に問題を抱えており、列強の植民地を経て独立を果たした他の多くのアフリカ諸国同様に、20世紀後半にクーデター、革命、内戦などの苦難の歴史を経験することになる。

世界史

問1 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-----------|--------------|-----------|
| a アイユーブ朝 | b アッシリア | c アッパース朝 |
| d イギリス | e イタリア | f オスマン帝国 |
| g オランダ | h カネム＝ボルヌー王国 | |
| i クシュ王国 | j スペイン | k ドイツ |
| l ナイジェリア | m ビザンツ帝国 | n フランス |
| o ベルギー | p ポルトガル | q マケドニア王国 |
| r マムルーク朝 | s 南アフリカ共和国 | t 南アフリカ連邦 |
| u メロエ | v モノモタパ王国 | w モロッコ |
| x リベリア共和国 | y ローデシア | z ローマ帝国 |

問2 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-----------|---------|----------|
| a アグラ | b アドワ | c イベリア半島 |
| d エチオピア高原 | e カタンガ州 | f キレナイカ |
| g タンジール | h 地中海沿岸 | i トリポリ |
| j トンブクトゥ | k ナパタ | l ファショダ |
| m マダガスカル | n マラケシュ | o マリンディ |

問3 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|------------|--------------|
| a スコット | b スタンリー |
| c トゥグリル＝ベク | d ニザーム＝アルムルク |
| e ヘディン | f マンサ＝ムーサ |

問4 下線部(1)に関する記述として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア この国の王家はマニ教を受容した。
- イ この国の王家はイスラーム教を受容した。
- ウ この国の王家はネストリウス派キリスト教を受容した。
- エ この国の王家はコプト派キリスト教を受容した。

問5 下線部(2)に関する記述として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア この沿岸部一帯では、アラビア語の影響を受けたアフリカーンス語が形成されていった。
- イ この沿岸部一帯では、アラビア語の影響を受けたスワヒリ語が形成されていった。
- ウ この沿岸部一帯では、アラビア語の影響を受けたベルベル語が形成されていった。
- エ この沿岸部一帯では、ペルシア語の影響を受けたベルベル語が形成されていった。

問6 下線部(3)の説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア イスラーム教に改宗し納税することでイスラーム国家の保護を受けた非アラブ人
- イ イスラーム諸学、特に法学を修得した学者・知識人
- ウ トルコ系などの白人奴隷が軍人に転じたもの
- エ 財産と信仰を保証された非ムスリムの庇護民

世界史

問7 下線部(4)に関連して、奴隷貿易の記述として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 武装したスペイン商人が、ギニア湾岸に侵入し、武力で奴隷狩りを行った。

イ ダホメ王国やベニン王国は、ヨーロッパ人との奴隷貿易によって繁栄した。

ウ スペイン継承戦争の結果、フランスはスペインからアシエント(奴隷供給請負契約)を獲得した。

エ イギリスでは1833年の奴隷貿易停止法によって奴隷貿易が禁止された。

問8 下線部(5)に関連して、コンゴ動乱の記述として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1960年に独立したコンゴの初代首相ルムンバは、旧宗主国ベルギーの介入などによる混乱の中で、反対派によって殺害された。

イ 1980年に独立したコンゴの初代首相ルムンバは、旧宗主国フランスの介入などによる混乱の中で、反対派によって殺害された。

ウ 1960年に独立したコンゴの初代大統領エンクルマは、旧宗主国フランスの支援のもと、反対派を粛正した。

エ 1957年に独立したコンゴの初代大統領エンクルマは、旧宗主国イギリスの支援のもと、反対派を粛正した。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

1769年にコルシカ島で生を受け、イタリア系貴族の出自をもつナポレオン＝⁽¹⁾ナパルトは、父親がフランス貴族としての身分を追認され、その子弟としてフランス国王から学資金を下賜されたことにより、幼い頃から王立幼年兵学校やパリ士官学校で学んだ。

フランスでは1793年半ばから山岳派主導による恐怖政治が始まった。この年、フランス西部の ⁽²⁾では徴兵に反対する農民反乱が起こり、8月にはフランス南部のトゥーロン港が反革命勢力に占領された。軍人として成長したナポレオンは、1793年12月にトゥーロン港の砲撃を指揮して奪回に成功し、軍隊で頭角をあらわした。翌年、 9日のクーデタが起こり、山岳派の嫌疑をかけられたナポレオンも逮捕されたが、釈放され、パリで起こった王党派の反乱を鎮めてその名を知られるようになった。さらに、ナポレオンは1796年からはじまる軍事遠征でロンバルディアにおいてオーストリア軍などを破り、1797年にフランスはオーストリアと の和約を結んだ。これによって 年からはじめていた第一回対仏大同盟は瓦解した。フランス近代小説の祖といわれ、『赤と黒』で知られる は、『パルムの僧院』の冒頭でナポレオンのこの戦役に触れた。

1798年になると、ナポレオンはイギリスとインドの間の連絡路を遮断する目的で、あらたな遠征を開始した。フランス軍は、ピラミッドの戦いでオスマン軍に勝利するが、アブキール湾の戦いにおいては 率いるイギリス軍に敗れた。この遠征中にはロゼッタ＝ストーンが発見された。イギリスの ⁽³⁾がふたたび提唱して第二回対仏大同盟が結ばれた。それにともなう自国の情勢を知ったナポレオンは、シェイエス、タレーランらとクーデタの計画を練って実行に移し、⁽⁴⁾総裁政府を打倒した。⁽⁵⁾この「 18日のクーデタ」と呼ばれる軍事クーデタによって、フランス革命は終結し、ナポレオン時代がはじまった。

ナポレオンは1801年に教皇と宗教協約を締結し、革命期から続いたフランスと教皇との対立にひとまず終止符を打った。⁽⁶⁾フランス国内で地盤を固めるナポレオンにイギリスが歩み寄り、イギリスとフランスの間では1802年に の和

世界史

約が結ばれた。

さらに、ナポレオンは1804年の国民投票によって皇帝への即位が支持され、第一帝政を開いた。古典主義絵画の代表者として知られる画家 は、パリのノートル＝ダム大聖堂で執り行われたナポレオンの戴冠式の様子を描いた。

第一帝政の成立によって、それに対抗する第3回対仏大同盟が締結された。ヨーロッパ支配を目指すナポレオンは大陸封鎖令⁽⁷⁾を発した。さらに、帝位継承を確実にするべく、妻のジョゼフィーヌと離婚し、ハプスブルク家の皇女マリ＝ルイーーズとの再婚を通じてヨーロッパにおける旧勢力との結びつきを強めようとした。兄のジョゼフをスペイン国王としたが、スペイン市民はジョゼフを王位篡奪者とみて蜂起するに至った。後年、ナポレオン軍に抵抗したこのスペイン民衆の蜂起を記念するために画家の は『1808年5月3日』を描いた。スペインの反乱を鎮圧できないまま、ナポレオンはさらにロシア遠征⁽⁸⁾を繰り返した。その後、ナポレオンはライプツィヒの戦い⁽⁹⁾でも敗北した。1814年にはパリも陥落して、退位したナポレオンはその年に 島へ流された。

問1 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|-------------|----------|
| a アイラウ | b アウステルリッツ | c アミアン |
| d ヴァグラム | e ヴァルミー | f ヴァンデー |
| g エルバ | h カンポ＝フォルミオ | |
| i クリミア | j セントヘレナ | k テイルジット |
| l テルミドール | m フリートラント | n ブリュメール |
| o マルヌ | p レパント | |

問2 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|--------|----------|
| a クライヴ | b クールベ | c ゴヤ |
| d スタンダール | e ダヴィド | f ドラクローワ |
| g バルザック | h ピット | i ラクスマン |
| j リカード | | |

問3 空欄 にあてはまる年を以下から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 1789 b 1790 c 1791 d 1793 e 1795

問4 空欄 にあてはまる語を解答欄に記入せよ。

問5 下線部(1)では、1729年からフランスに割譲される1768年まで、13世紀以来の宗主に対する武装反乱が発生していた。その宗主はイタリアの港市国家として13世紀に栄華を誇ったが、14世紀にはヴェネツィア共和国に東方貿易の独占を許し、覇権争いに敗れたという歴史をもつ。この国として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|------------|
| ア アラゴン王国 | イ ジェノヴァ共和国 |
| ウ フィレンツェ共和国 | エ ミラノ公国 |

世界史

問6 下線部(2)について述べた文章として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 山岳派は国民公会からジロンド派を追放して政権を握り、ロベスピエールやブリッソらによる恐怖政治を展開した。

イ エベール派を中心に理性の崇拜がおこなわれた。

ウ 1793年、国民公会はパリに革命裁判所を設置し、多くの反革命派を処刑した。

エ 公安委員会は山岳派が独裁政治をおこなううえでの拠点となったが、1795年に廃止された。

問7 下線部(3)について述べた文章として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 石板はアレクサンドリア東方のロゼッタで発見された。

イ 石板にはエジプト王プトレマイオス5世を讃える文が書かれている。

ウ 石板は神聖文字、ギリシア文字の2書体で書かれている。

エ フランスの考古学者シャンポリオンは、ギリシア文字の部分を手がかりにしなが、石板に刻まれた神聖文字の解読をおこなった。

問8 下線部(4)について述べた文章として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 聖職者であったが、三部会の第三身分議員に選出された。

イ シェイエスは、三部会で身分別議決法を主張した。

ウ 1789年に著した『第三身分とは何か』で特権身分を激しく批判した。

エ 総裁政府に加わった。

問9 下線部(5)について述べた文章として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 上級聖職者出身の政治家である。
- イ 革命期には教会財産の国有化に反対した。
- ウ 第一帝政期に外相を務めた。
- エ 正統主義を提唱し、これがウィーン会議の基本原則となった。

問10 下線部(6)について述べた文章として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア カトリック信仰が公認された。
- イ この協約は教皇ピウス7世との間で結ばれた。
- ウ 教皇はフランス政府が指名した聖職者を任命することになった。
- エ 革命期に没収された教会財産は返還されることになった。

問11 下線部(7)に入っていた国として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア イギリス, オーストリア, スペイン
- イ イギリス, オーストリア, ロシア
- ウ イギリス, ポルトガル, ロシア
- エ イギリス, オスマン帝国, ポルトガル

世界史

問12 下線部(8)について述べた文章として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア イギリス経済に打撃を与えることを目的として、ナポレオンがパリで発した。

イ ナポレオンがこの勅令を発したのは1806年であった。

ウ この勅令はイギリス市場を失った国々を苦しめ、その結果、密貿易が横行した。

エ この勅令は結果としてポルトガルの離反を招き、ナポレオンはポルトガルへの出兵を執行した。

問13 下線部(9)について述べた文章として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 大陸封鎖令によって、ロシアは穀物輸出に苦しみ、1810年から対英貿易を再開していた。

イ ナポレオンの軍事遠征は1813年から執行され、同年9月にはモスクワを占領した。

ウ フランス軍はクトゥーゾフを総司令官とするロシア軍と戦った。

エ この遠征を機に、対仏大同盟があらためて結成された。

問14 下線部(10)において、ナポレオン軍を破ったスウェーデン以外の連合軍の国々として正しいものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア イギリス、オーストリア、ロシア

イ イギリス、スペイン、ロシア

ウ オーストリア、スペイン、ポルトガル

エ オーストリア、プロイセン、ロシア

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

インド帝国には様々な言語や宗教があり、また多くの藩王国も残存していた。このため、多様な民族運動の協調と対立による紆余曲折を経て1947年にインドはインド連邦として独立に至った。以下にその過程を概観してみよう。

- (1) まず、インド帝国において、現地人の意見を諮問するためにインド国民会議が1885年に結成された。当初この組織は、ヒन्दゥー教徒の知識人、地主などのエリート層が中心で、選挙で選ばれたインド人が立法参事会や行政に参加すること、高等文官職をインド人にも開放することを要求していた。インド国民会議結成に参加した は、インドの貧困の原因はイギリスへの富の流出にあると分析した。19世紀末頃から が自治と独立の要求を掲げ、従来のインド国民会議の穏健派指導層とは異なるヒन्दゥーの急進的民族運動を組織するようになった。一方、ムガル帝国下での旧支配層であったムスリム上層部は、一部を除いて、多数派であるヒन्दゥーが主導権を握るインド国民会議への積極的参加を差し控えていた。

しかし、1905年にイギリスが発表した 分割令は、インドの民族運動の状況を大きく変化させた。まず、分割令反対運動を展開する中で らの急進派が国民会議の主導権を握り、翌年のカルカッタ大会で4綱領を採択した。⁽²⁾ 1907年に国民会議は穏健派と急進派に分裂し、 の投獄によって再度穏健派が指導権を握ったが、民族運動の基盤的組織の一つとなった点は重要である。一方、ムスリムは 分割令に別様の対応を示した。分割によりムスリムが多数派を占める州が誕生する可能性があったからである。少数派であるムスリムの政治的権利を確保すべく、代表団がインド総督を訪問し、これをきっかけに全インド＝ムスリム連盟(1906年)が結成された。

第一次世界大戦中にイギリスはインドから戦争協力を得るために、インド担当大臣が将来的な自治を約束した宣言を発表した。ところが、1919年に出されたインド統治法は、州行政の一部にインド人参入を認めたとすぎないものであり、さらに予防拘禁を可能とする弾圧法である 法制定の動きは、民族運動の指導者達にイギリスの裏切りを痛感させた。この時、裏切った政府に対する不服⁽³⁾

世界史

従運動(非協力運動とも言われる)を提唱したのがガンディーであった。この運動は、ヒンドゥー教徒のみならず、ムスリム、そして⁽⁴⁾ [B] 教の聖地である [C] 州のアムリットサルで起こった虐殺事件によって [B] 教徒にも広がっていった。

1919年に始まった不服従運動でのヒンドゥー教徒とムスリムの共闘は、後者のガンディーへの信頼とも相まって、ガンディーが主導する国民会議へのムスリムの参加を促し、1920年に国民会議はインド人民による自治の獲得を目標とする新しい規約を採択し、組織的にも「国民会議派」という政治運動組織として変貌を遂げた。しかし1922年に農民による警官殺害事件が発生し、ガンディーは非暴力の原則が侵犯されたとして運動を中止した。また、ムスリムの中に国民会議派との共同歩調を取らない分離派が現れ、民族運動における運動方針や宗派の対立が深刻化した。

ところが、1927年にイギリスが [③] を委員長として新たなインド統治法制定のための憲政改革調査委員会を発足させた際に、一人のインド人委員も任命しなかったことから、委員会のインド調査時にデモや一斉休業など全国規模での新たな抗議運動が巻き起こった。1929年にイギリス側は事態収拾のため、将来インドを自治領にするという宣言を出したが、国民会議派内のネルーなどの急進派はそれに満足せず、完全独立を目指すことと、ガンディーに不服従運動再開の権限を与えることをラホール大会で決議した。翌年ガンディーはインド総督に11項目の要求を提出し「 [い] 」と言われる第二次不服従運動を開始した。ガンディーは5月に逮捕されたが、運動は高まっていった。イギリス側はロンドンで [う] を招集したが、国民会議派は参加を拒否したので、インド総督はガンディーを釈放したうえで会談し、協定を結んだ。いったん不服従運動の中止を命じてガンディーは [う] に応じたが、国民会議派の要求は認められず、これに対抗して不服従運動を再開したがその勢いは陰りを見せていた。こうして国民会議派が不参加の [う] を経て、⁽⁶⁾ 1935年に新インド統治法が成立し、州議会と州内閣がインド人に移譲されることになった。ところが、1937年の州選挙で多くの州で政権を獲得したのは国民会議派だった。そして、この時、国民会議派が自らの優勢に驕り、全インド=ムスリム連盟を軽視したことによって、両組織の

間に修復しがたい亀裂が生まれた。

国民会議派と全インド＝ムスリム連盟の亀裂は、第二次世界大戦が勃発し、インドの戦争協力への是非が問われた際に、決定的なものとなった。インド総督の参戦決定に対して、国民会議派の州政権は戦争非協力の立場をとったが、ムスリム主導の政党が政権を握っていた 州と 州は、別様な事情にあった。これらの州からは多くのインド軍兵士が出ており、イギリス側からしても戦略的に重要であったため、インドから分離したムスリムの国家設立と自治権付与という譲歩によってこの2州の州政権から戦争協力を取り付けるべく、総督側は対応した。この状況のもと、1940年、 が議長を務める全インド＝ムスリム連盟はその大会でインドから分離したムスリムの国家建設を決議し、親英的立場をとることとなった。

1941年末から戦線がアジアに拡大しても、独立を棚上げにするイギリスと戦争⁽⁷⁾非協力の姿勢をとる国民会議派の溝は埋まらず、ガンディーは、インドが戦争に巻き込まれる元凶はイギリスのインド駐留であるとして、「インドを立ち去れ」運動を開始した。ガンディーやネルーなどの指導者は全員逮捕されたが、運動は多様な形態で全インドに広がった。

第二次世界大戦終結後もイギリスは交渉の基本姿勢を変えなかったが、戦中に が組織し 軍と共同したインド国民軍の将校・兵士を反逆罪で告発したことが、インドの民衆の義憤を惹起し、反裁判の国民的大運動が起こった。これを受けてイギリスは具体的な独立案を検討すべく使節団を派遣したが、まさに独立が現実化するとともに、ヒンドゥーとムスリムの大宗派紛争が起こった。イギリスは1947年にインド独立法を成立させインドから撤退したが、統一インド⁽⁸⁾か分離かをめぐる政治的紛糾の中で、膨大な数の難民が生まれた。また、 では住民の多くがムスリムであるにもかかわらず藩王がインドへの帰属を表明したので、インドとパキスタン両国がともに 併合を主張し、1947年に武力衝突が起こった。

問1 空欄 ～ にあてはまる語を解答欄に記入せよ。

世界史

問2 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|------------------|----------------|
| a アーウィン | b アンベードカル |
| c イーデン | d カルティニ |
| e サイモン | f サヤー＝サン |
| g シャストリ | h シャー＝ワリー＝ウッラー |
| i ジンナー | j タゴール |
| k ダヤーナンド＝サラスワティー | |
| l チャンドラ＝ボース | m テイラク |
| n ナオロジー | o バネルジー |
| p プラサド | q マハティール |
| r ラーマクリシュナ | s ラーム＝モーハン＝ローイ |

問3 空欄 ～ にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|--------|---------|----------|
| a オリッサ | b カシミール | c グジャラート |
| d シク | e ジャイナ | f ゴロアスター |
| g デリー | h バラモン | i パンジャーブ |
| j ベンガル | k ビハール | l 仏 |
| m ボンベイ | n マイソール | o マドラス |

問4 下線部(1)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア イギリス連邦内の自治領であった。
- イ イギリス国王を元首としていた。
- ウ 旧インド帝国下の藩王国の一部も連邦に加盟した。
- エ ムスリム住民の多い地域はパキスタンとセイロンという二つの自治領に分かれて独立し、インド連邦には属さなかった。
- オ すべて正しい

問5 下線部(2)の4綱領の内容としてあてはまるものを次のア～クから四つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア カーストによる差別の禁止
- イ 自治要求(スワラージ)
- ウ 議会設立とインド人参政権の要求
- エ イギリス商品のボイコット
- オ 国産品の愛用
- カ 不可触民身分の廃止
- キ インドの母語による民族教育
- ク インド政府の高等行政官へのインド人の参入

世界史

問6 下線部(3)の具体的な内容として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア サティヤグラハの実践という基本理念
- イ 税の不払い
- ウ 国産の手織布の積極的な生産と使用
- エ 『インドの発見』出版によるヨーロッパ文明やキリスト教への対抗
- オ すべて正しい

問7 下線部(4)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア ロンドンに留学して弁護士となった。
- イ 南アフリカでインド人移民への差別撤廃のために活動した。
- ウ ヒラーファト運動への参加を支持した。
- エ ムスリム急進派に暗殺された。
- オ すべて正しい

問8 下線部(5)の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア インド憲法起草委員会委員長を務めた。
- イ インド共和国の初代首相となった。
- ウ 5か年計画の実施など、社会主義的な計画経済をとりいれた。
- エ インド独立当初は非同盟・中立外交をすすめた。
- オ すべて正しい

問9 下線部(6)の年に、イギリスが法の制定によって2年後のインド帝国からの分離と一定の自治を認めた国を次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア アフガニスタン

イ ネパール

ウ ビルマ

エ ブータン

問10 下線部(7)と下線部(8)のときのイギリス首相をそれぞれ以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a アスキス

b アトリー

c チェンバレン

d チャーチル

e ボールドウィン

f マクドナルド

g ロイド＝ジョージ